

皮心伝心

老化のせい？

「これは、老化現象で皮膚の潤いがなくなったせいで痒くなっているのですよ」「あ～あ、先生のところでも老化ですか？ 行くとこ、行くとこで老化、老化っていわれて嫌になっちゃう」。この患者は皮膚科の後、整形外科に再診予定とのことである。

高齢社会である。すべての臓器はその機能が徐々に低下する。車ならまると新車に、壊れた部品があれば新品に取り換えればよい。しかし、人間はそうはいかない。人間がもし車だとしたら、たとえばタイヤがパンクしたなら、そのパンクした部分を修理して再びそのタイヤに空気を入れて走らねばならない。最初時速100 kmで走ることができていたが、修理のたびにその速度は落ちていく。老いた車は50 kmぐらいいでしか走れないかもしれない。それでは、100 kmで走れる車が正常で、50 kmでしか走れない車は異常なのか？ 何をもって正常かを定義することは難しい。80歳の人を全員集めて、心臓、腎臓、皮膚などの状態を調べたその平均値が、80歳の方々の正常値ということになると思われる。

老化のせい、といわれると、「何もやることがない、諦めよ」という風に聞こえると患者さんにいわれたことがある。「年相応の変化ですよ。同級生の方々にも皆さん多かれ少なかれ同じ変化がおこっていますよ」と苦肉の策で申し上げている。

年をとってくると両前腕外側に老人性紫斑ができてくる。年のせいと説明している間はよいが、困る問題としてスキン-テア(皮膚裂傷)に遭遇することが多くなった。加齢や薬の副作用などで皮膚が薄く、もろくなっている。そのため、腕や足を軽くぶつけたり、擦ったりしただけで、皮膚が裂けるほどの傷になってしまう。絆創膏を剥がすときに一緒に皮膚が剥がれる、体位変換時に身体を支えていたら皮膚が裂けた、転倒したときに皮膚が裂けた、事例を紹介すると枚挙にいとまがない。

スキン-テアを起こしにくい患者さんへの触れ方がある。たとえば腕を持ち上げるときに、①手のひら全体で腕に触れる、②指先に力を入れない、③手の指を開かない、④持ち上げたら下から腕を支持する。高齢社会、新たな概念が生まれ、それに対する新たな対処法がどんどん考案されてきている。年のせいだと患者さんに説明している間に学ばなければいけないことが山ほどある。医者をやっている以上、手を緩めることなく、生じてくるさまざまな現象に対応していく必要がある。高齢社会、やることはたくさんある。

私自身、あちこちの科を受診したとき、若い先生方に年のせいといわれる立場になってきつつある。表現次第だが、少し元気や希望の出るようなムンテラを聞きたいと期待している。

白濱 茂穂

(聖隷三方原病院皮膚科部長)